

総務委員会会議録要旨

開会日	平成29年10月24日(火)午後7時00分
閉会日	平成29年10月24日(火)午後8時50分
場 所	長久手市消防本部3階 会議室
出席委員	委員長 さとうゆみ 副委員長 山田けんたろう 委 員 上田 大 岡崎つよし 加藤和男 吉田ひでき
欠席委員	な し
欠 員	な し
会議事件のため出席した者の職氏名	<p>【消防本部】</p> <p>総務課長 出口史朗 課長補佐兼消防係長 工藤 仁 専門員 鈴木隆宏</p> <p>【消防団】</p> <p>団長 武田和久 副団長 與語久光 部長 嗟峨剛 部長 青山健二 部長 松原健太郎 部長 山際裕行 岩作分団副分団長 原田晋 長湫分団副分団長 岩淵貴 上郷分団分団長 野口敏</p> <p style="text-align: right;">計 12人</p>
職務のため出席した者の職氏名	専門員 大谷悠
会 議 録	別紙のとおり

別紙

委員長 開会宣言

消防団について

1 消防団関連予算の要望について

総務課長 平成 28 年度消防団関連決算について説明

委員長 予算について何か要望はあるか。

武田団長 はんてんについて、団長と副団長は「長久手市」になっているが、他の団員は「長久手町」のままであるため、新しいものを支給してほしい。長久手の看板を背負って活動しているので、こういう予算は一番大事なことだと考えている。

岡崎委員 予算要望は消防にされているのか。

総務課長 正式な要望は受けていない。平成 28 年度、29 年度で新基準の活動服を予算計上している。

武田団長 口頭では何度も要望している。

さとう委員 はんてんはいくつ消防団に必要なのか。

武田団長 全体で約 100 着必要だが、1 年に 20 着ずつ 5 年かかってもよい。

さとう委員 1 着あたりの金額はいくらか。

嵯峨部長 約 3 万円である。

委員長 総務委員会としてはんてんは市のものに変えていくべきと強く要望していく。他に要望したいものはあるか。

武田団長 尾張旭市では耐火服を現在一番良いものを使用しており、各市町で装備品に差があるので要望したい。

さとう委員 耐火服はどのくらい必要か。

武田団長 3 台ある車両に各 5 枚必要なので、各分団に 15 枚ずつ必要である。

委員長 他に不足している装備品はあるか。

武田団長 本市は雨合羽が紺色であるが、夜間の警備が非常に危険である。他市町は赤色やオレンジ色であるので目立つ色に更新するよう要望したい。

吉田委員 雑談だけで要望しては予算がつかないので、本当に必要なものなら書面で要望すべきである。

武田団長 書面で要望することを検討する。

総務課長 書面で提出してもらった方が分かりやすく漏れもなくなるが、要望全てを予算要求できるわけではない。

さとう委員 口頭で要望を受けたものについて、予算要求しているのか。

総務課長 どうしても予算措置したいものを優先して予算要求しているため、要望があったものの要求はしていない。

嵯峨部長 例えば平成 28 年度は無線を 500 万円、平成 29 年度は活動服の更新を 500 万円予算要求しており、毎年大きな歳出がある。消防本部としても厳選して予算要求していると聞いている。

さとう委員 毎年の大きな歳出に加えて消防団の要望を予算要求した場合、予算はつくのか。

嵯峨部長 義務的経費等があるため、経常的経費の予算は非常に厳しい。

さとう委員 本当に必要なものなら消防の予算枠を超えてでも計上すべきではないか。

武田団長 市から支給されるものは非常に助かる。特に自分の身を守れるものを要望していきたい。

委員長 最終的に予算が認められるかどうかは市長の判断となるが、総務委員会としても認められるよう後押ししていきたい。

吉田委員 消防広域化後は消防団の取扱いはどうなるのか。

総務課長 消防団は市が設置するものであるもので、広域化となっても取扱いは変わらない。

武田団長 広域化によりみよし市が加入するので、今後みよし市の消防団とも交流していきたいと考えている。また、人員や車両、装備等の総合力で他市町と差ができないようにしたいので、情報収集していきたい。広域化するなら消防団も連携していくことを団長同士で確認している。

さとう委員 出動手当額について、本市は 1 回あたり一律 2,000 円であるがどう考えているか。

武田団長 以前はほぼなかったことを考えると多くなったが、自分の生活を削って活動していることは加味してほしい。

吉田委員 年間平均でどのくらい出動しているか。

総務課長 団員は年間平均で 22 から 23 日ほど出動している。分団長は多忙で 120 日を超える出動がある。

2 消防団が抱える課題について

岩淵副分団長 災害があった時に消防団として何もできない状態である。活動を災害型に特化してはどうかと考えている。

さとう委員 災害が発生した際、自主防災会とはどんな連携をするのか。

武田団長 現在のところ自主防災会とは連携していない。災害時には一般市民ができないことをするのが消防団だと思っているので、例えば警戒活動や

消防署員の補助等の非常時活動等、災害に特化した活動をしていきたい。

さとう委員 災害が発生した際、消防団がどう動くかについてのマニュアルはあるのか。

武田団長 マニュアルがあり、まずは詰所に参集することになっている。

さとう委員 災害型の消防団として活動するにあたり、課題となっている点は何か。

青山部長 災害用の資機材が少ないことが課題である。長湫分団は県から借用しているものがあるが、岩作、上郷分団には配備されていない。例えば油圧ジャッキの詳しい使用方法が分かる団員が少ない。

さとう委員 長湫分団が県から資機材を借用できるのはいつまでか。また、他の分団も県から借用できないのか。

武田団長 借用期限はなかったと思うが、確認が必要である。また、資機材の調達は市にお願いしたい。建設業に携わる団員が多いので、チェーンソーやエンジンカッター、ジャッキ等の資機材の取扱いの指導は可能である。

岩淵副分団長 例えば連絡がとれなくなった等イレギュラーなことが発生した場合を想定した高度な訓練が市全体でできるとよい。

嵯峨部長 市の職員も含めて誰も災害の経験をしたことがないということが不安であるので訓練は必要であると考え。

岡崎委員 現在も実施している市内一斉訓練の中でそういった訓練ができないか。

武田団長 消防本部から地域住民と同じ内容の訓練をするように依頼されており、地域住民の要望もあって消防団独自の訓練ができないのが現状である。

岡崎委員 各小学校区の自治会長等に消防団の考えが伝わっていないかもしれない。せっかく一緒に防災訓練を実施するのであれば、訓練のテーマを設定するなど提案して連携するとよいと考える。

武田団長 消防団詰所の耐震性能が非常に低く、災害時に車両を出動できなくなる可能性が高い。耐震工事をしないといけないことが喫緊の課題である。

さとう委員 大草と前熊の詰所は市の所有であるが、耐震診断は実施しているのか。

武田団長 実施していない。

委員長 総務委員会として詰所の耐震状況については確認していく。

青山部長 新入団員の勧誘に一番苦慮している。定数よりもはるかに少ない人数であり、県内でもワーストである。消防団と事務局で広報の努力をしているが結果が出ていない状況である。議会からもバックアップしてほしい。

武田団長 人員対策として、山梨県甲府市では市の職員が入庁から2年間消防団

員に強制的に配属する取組を行っている。

野口分団長 上郷分団は高齢化が進んでおり、団員OBの協力がないと活動ができない。団員もサラリーマンが多く、残業や夜勤がある人もいる。また、前もって参加するよう団員に伝えないと訓練もできない。既に団員経験者が多く、たまたま婿として上郷地区に居住することになった人を勧誘しても9割5分断られる。本来20代から30代の人が多くいなければならないが、上郷分団は20代が1人所属しているだけである。地域的にも人の絶対数が少なく、勧誘に苦慮している。

吉田委員 なぜ消防団に入ってもらえないと考えているか。

野口分団長 岡崎市では、消防団が勧誘活動をするのではなく、区会から1人ずつ選出している。区会長は団員を選出できるまで辞めることができないシステムになっている。どうしても選出できない場合は区会長本人が団員になるケースもある。消防団だけが勧誘するのではなく地域全体で勧誘する仕組みが必要と考える。

さとう委員 上郷地区の3区長に協力依頼してはどうか。

吉田委員 分団を廃止して全体から人数を割ってはどうか。

武田団長 そんな単純な話ではなく難しいと考える。例えば各小学校区で6分団に地域を割ったとすると、市が洞小校区にはほとんど団員がいない。

吉田委員 地域で割って見たら団員が入ってくれるかもしれない。一度やってみてはどうか。

武田団長 全国的にも自治会に協力依頼するのは難しい。

吉田委員 長久手市の消防団員はなぜこんなに増えたのかということをする必要がある。総務委員会だけの問題ではない。

嵯峨部長 我々もどうしたらよいのか悩んだ末に総務委員会に相談しているので、相談は聞いてほしい。消防団としても何か議会にも協力をお願いできるのではないかと期待して相談している。

さとう委員 18、19歳の団員は何人いるか。また、そういった大学生の団員は卒業すると辞めていくのか。

武田団長 岩作分団に2人、長湫分団に1人の計3人である。大学生の団員の事例は今回が初めてだが、3人はおそらく消防団を続けると思われる。消防団はお金に代えがたい経験や知識、仲間づくりであり、やらないのはもったいないと考えて勧誘はしているが、結果に結びついていないのが現状である。

加藤委員 以前は消防署もなく青年団があって、同年代が集まって祭事などで活動していた。その後歳が達すると消防団に入り、退団すると社会人にな

っていく。消防署が設置された時に消防署と消防団の位置づけは、消火は消防署、交通整理等の手伝い等は消防団となった。地震や水害があって初めて消防団の活動内容が分かる。そのための備えとして消防団がある。自分は親が反対したので結婚してから入団し、30代から5年ほど活動した。入団してから消防団の良さが分かったが、その魅力をアピールできるものがあればよいと思う。

武田団長 以前、消防団の活動内容が分からないという意見をいただいたことがあり、消防団の見える化をしていきたい。南部浄化センターや新設の長湫北保育園のあたりで訓練をしようと計画したこともあるが、周辺住民からの騒音苦情が懸念されたため断念した。活動をアピールしようと思うと、操法大会で好成績を収めて広報紙で見てもらうくらいしか方法がないことが非常に歯痒い。操法大会は何年か連続で上位入賞しており、昨年度は小型ポンプ車で2位、今年度は9年ぶりに出場したポンプ車で5位入賞を果たした。レベルの高い消防団と自負しており、団員のスキルも高いので何とかして団員を増やしたい。幽霊団員もいたが、消防団に5年以上所属すると退職金が発生してしまうため、その前に退団してもらうことを数年前から取り組んでいる。

さとう委員 南山大学では、大学の消防団が組織されており、普段は昭和区の消防団として活動している。こうした活動をすることにより就職活動で功績として有利に働くこともあり、活動人数は多い。本市にも多くの大学があるので、働きかけてはどうか。

青山部長 認証制度が県全域で始まったので、可能だと考える。長湫分団にも大学生が2人いるが、学内の友人が入団するかもしれない。消防団として大学への働きかけはまだ行っていない。

さとう委員 認証制度があっても1人で消防団に入るには勇気がいる。大学に組織があっても一定数まとめてもらえるのであれば、入ってみようと思ってももらえるかもしれない。

武田団長 みよし市では東海学園のある大学教授がゼミで学生消防団を組織して活発に活動している。長久手でもこのように引っ張っていってくれる人材がいるとよいと考える。

岡崎委員 消防団員にこの活動を何日やるという決まりはあるのか。

青山部長 長湫分団では入団時に規約や年間行事を手渡ししている。

岡崎委員 入ろうと思って入る人はそうかもしれないが、募集時に活動内容を説明できるようなものはないのか。

青山部長 消防団員募集のチラシに活動内容を掲載し、カラーで回覧している。

それに加えて不定期だが、広報や長湫だよりでも活動内容を掲載した募集をしている。

加藤委員 市内に5、60ある自主防災会が年に3回ほどDIGやHUG等といった活動をしている。安心安全課に要請して消防団も一緒に参加してはどうか。

嵯峨部長 既に参加しており、特に長湫地区は活発で毎週のように参加している。自主防災会のメニューに消防団が参加するものがあり、初期消火については消防団が講師となって教えている。長湫地区は何10カ所とあるので分担して毎回3、4人ずつ参加している。

加藤委員 自主防災会でも団員の募集は行っているか。

嵯峨部長 行っている。それに加えて各地のイベントや祭りの警備の際に消防車を置いてPRしたり防火服を着て記念写真を撮ってもらったりしている。

青山部長 PRの効果がないので、今年度から方向性を変えてイベント等への参加を減らしている。

武田団長 消防団が警備要員やアトラクションのお手伝いに使われるようになり、操法大会の日程が近かったこともあって夏祭りへの参加は断った。

委員長 以上で閉会中継続調査を終了する。

委員長 閉会宣言

午後8時50分 終了

以上、要点筆記は会議内容と相違ないので署名する。

平成29年10月24日

総務委員会委員長 さとうゆみ